

## IV-2

### 骨髄腫細胞における nm23-H1 の発現と予後

八田善弘<sup>1</sup>、相澤 信<sup>2</sup>、入山規良<sup>1</sup>、竹井和大<sup>1</sup>、上野川久美<sup>1</sup>、斎木 実<sup>1</sup>、石塚 光<sup>1</sup>、  
小林寿美子<sup>1</sup>、蔵 良政<sup>3</sup>、山崎哲男<sup>1</sup>、伊藤武善<sup>1</sup>、澤田海彦<sup>3</sup>、竹内 仁<sup>1</sup>、

日本大学血液膠原病内科<sup>1</sup>、解剖学<sup>2</sup>、春日部市立病院血液化学療法科<sup>3</sup>

【目的】nm23 は細胞増殖、分化、転写調節、アポトーシスなど様々な機能を持つ蛋白である。その発現は固形癌の転移を抑制するが、リンパ腫においては逆に予後不良因子と報告されている。しかし現在までのところ骨髄腫における nm23 発現の意義は不明である。我々は nm23 蛋白の発現と骨髄腫の予後を検討した。【方法】対象は 53 例の骨髄腫患者（観察期間 0.5-172 ヶ月、中央値 63 ヶ月）。初診時の骨髄穿刺検体をホルマリン固定し、nm23-H1 の免疫染色を施行した。検体中の形質細胞は全例で有核細胞の 20%以上であった。形質細胞の nm23-H1 発現と予後、および各種の予後因子を検討した。【結果】53 例のうち、nm23-H1 を発現していたのは 16 例であった。Durie-Salmon の stage では stage I で 0%、II で 20%、III で 35%の症例が nm23-H1 陽性であり、進行例ほど発現例が多かった。nm23-H1 の発現と予後因子を解析すると、nm23-H1 陽性群で補正血清 Ca 11.5 mg/dl、陰性群で 9.4 mg/dl と有意に陽性群で高値だった ( $p<0.01$ )。Alb、Hb、 $\beta_2$ -MG は両群で差を認めなかった。生存分析では nm23-H1 陽性群の 50%生存期間は 14.5 ヶ月、陰性群は 34.5 ヶ月であり、陽性群が予後不良であった。【結論】nm23-H1 の発現は骨髄腫の進行、予後を示唆する。